

成果の説明書

(氏名) 名和賢美	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>2017年度に最も力を注いだのは、昨年度に引き続き、「論理的表現力と批判的思考力を主軸とした市民教育プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する教育研究の成果および事業の概要は、以下の通りである。</p> <p>(1) 初等中等教育での教育研究</p> <p>① 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1年生への作文指導 (11月28日) 今年で6回目。附属高体育館にて「苦手な作文の攻略法：読みやすい文章の書き方」という講義を1年生に実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎に関する理解促進および能力向上を図った。附属高のスーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。</p> <p>② 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1年生オナークラスへの「経大生による作文指導講座」の開催 (11月30日、12月14日、1月11日) ゼミ生が附属高1年オナークラス生徒に少人数制で型作文を指導するという企画であり、今年で7回目の実施。3日間にわたる大学生21名のきめ細やかな指導により、生徒75名の論理的表現力を大幅に高める一助となる。附属高のスーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。</p> <p>(2) 高等教育での教育研究：経済学部教養教育委員会日本語部会の部会長 (通年) 経済学部では2014年度より1年次生の批判的思考・論理的表現の汎用力の育成を目指す導入科目として日本語リテラシー科目を新設開講したが、本科目の授業内容の検討や担当者の選定などを逐条審議する部会を定期的に主宰した。さらに、次年度に向けて『指導要領2018年版』(99頁)を作成した。 なお、学内広報誌において本科目に関する紹介記事も執筆した。 名和賢美「どの大学にもない授業が、ここにある！：経済学部日本語リテラシー科目」高崎経済大学広報室編『たかけい学報』第98号、1-2頁。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>(1) キケロ『弁論家について』教材用翻訳 「日本語リテラシーⅠ」では上記著作の一部を輪読教材として使用してきたが、学生がより理解しやすい教材とするために、次年度に向けて該当部分ラテン語のオリジナル訳を準備した。</p> <p>(2) ラジオ高崎「ラジオゼミナール」への出演 第44回(2月23日放送)では、ゼミ生2名とともに、ゼミナール活動の内容や教育方針などについて説明。第45回(3月2日放送)では、古代ギリシアの政治思想や弁論術を核とする市民教育論に関して解説した。</p>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

前年度と同一テーマが、最重要課題となる。具体的には、以下の通りである。

まず、初等中等教育での教育研究では、附属高との高大連携事業最終年となる。また、小学生への指導も再開実現を目指す。さらに、本年度にあまり進展できなかった批判的思考力指導に関してパイロット授業の実施を模索したい。

それから、高等教育での教育研究では、部会長を継続し 5 年目を迎える日本語リテラシー科目の充実に努めると同時に、この 5 年間の教育研究成果をまとめ上げたい。